

大阪経済大学

経営学部長 二宮正司様

当校講師

公認会計士 鯉田勝己

英青監査法人代表社員



前略 乱文お許してください。

鄭重なる御手紙を読み、昭和 43 年から 35 年間何一つ意見を申し上げず、単なる講師として、努力して参りましたが、一番貴校の現状に不安を感じているのは私達のような外部の空気を吸い、生徒の質、先生の質、の移り変りを肌身に呼吸している講師から一筆申し上げる失礼をお許してください。

私は、23 歳で関西学院大学院終了、新明和工業(株)入社すぐ二次合格、26 歳（昭和 36 年）で三次合格 38 年より独立開業、42 年より当校講師を拜命、その間税理士国家試験試験委員を 3 年経験している者です。その間学校では経営分析（二部が殆どで一部を一年間担当）、ゼミ数年（税務会計を主に）担当、簿記論 4 年程担当、監査論 10 年？大学院は 4 年目になります。二コマを半年で仕上げ、あとサービスで法人税を教えています。昭和 43 年以来膨大な教科書、参考書は自前で負担しています。

今、実務界では国際会計基準の嵐が吹き、時価会計の時代、連結決算の時代となって参りました。会社が投資家に発表する決算報告にも、I. T 化され、電子情報システムによる発表に変わって参りました。学校もこれらの情報を取り込み、産学協同、相互乗り入れをしないと手遅れとなります。

将来の予想を申し上げますと、まず、貴校は危険な状況にあると判断せざるを得ません。私は、学校法人 賢明女子学院、淳心学院をも 30 年近く監査を担当しておりますので、現在の貴校の置かれた状態も十分に承知しております。

東大の合格率の高い淳心学院でも将来の東大合格率の低下、（先生のマンネリ化が原因かも？）入学者の減少に危機感をもっています。それは新しい、合格率の高い高校が一生懸命生徒を教育して有名になっており、一時も油断できないからなのです。

その様な優秀な学校を見ると昼休み等 3 分、5 分を惜しんで廊下で先生を捉まえて質問する生徒が順番を待っています。先生も生徒も必死です。そのために廊下に机と椅子を用意しています。電気スタンドまで有ります。当校ではどうでしょうか。学校に入ると別世界の雰囲気です。残念ながら一生懸命勉学に勤しんでいるとは思えません。タバコを燻らせ、地面にべたっと座り雑談しています。

今、世間は、すぐ役に立つ学生を求めています。以前は学校で単位を貰って卒業すれば先輩が 3 年 5 年で一人前に教育してくれたものです。今はどの会社もそんな余裕はありません。

当校の学生はただ何となくぼんやりとした、そんな学生が殆どです。(二部の学生でもそうです。) 二部の生徒は最初は希望に燃えて入学するのですが、廻りのすべての学生が単位を簡単にもらえる学校の雰囲気慣れ、3年経過すると完全に眼の輝きを失っています。鉄は熱いうちに打てという格言は貴校にこそ当て嵌まるのではないのでしょうか。鉄を打つ人が澁んでいては鉄は打てません。これは貴校からの御手紙を拝見しても指摘されていることです。

大学院の現状も税理士の試験を受けなくて修士で終了すれば合格という裏口入学を狙った学生ばかりです。その為に試験制度が変わりました。多分、来年からは大学院も入学者が少なくなるでしょう。現在13人の学生中本当に勉強する学生は一人あれば良いと思っております。

私は国家試験の試験委員を3年拝命したため、国税庁の人事官房の国税局員採用部門と税理士試験担当部門が、国家税務行政をどうするか決定する人事官房の総務部門一ヶ所にあると知ったのです。

国税庁も税理士の無試験組が、税務官庁終了無試験組を抑えてトップになり、税理士法の改正が行われることとなったのです。

今、大学院の入学生は簿記、会計が分からない生徒が大部分です。決算書、財務諸表が全然読めないのです。論文を作成させますと、適当に他の学者の論文を繋ぎ合わせて引用先一つ明らかにしません。親しく接してくる大学院の学生が申しますには“論文を煩く言い、分厚く重い冊子を抱えて税法の条文を読み、税務会計理論を解説する私が重苦しく何となく疎ましいのです。要は今、入学している学生は無試験でOKなのです。論文に60点くれればよいのです。と笑いながら申します”

税法の論文を書いても三科目のうち一科目の国家試験に合格しなければならず、会計の論文を書いても会計学二科目(簿記、会計学)の内、一科目の国家試験を合格しないと税理士の資格が貰えなくなるので、来年四月から入学してくる大学院の学生がどう変わるか興味を持っています、期待半分といったところでしょうか。大学院でもこうなんです。

大学では特に大変です。今、私の監査論を受講している学生は数人に過ぎません。内、一人女子は昼一部の学生で、熱心で100%出席ですが、残念ながら簿記会計の基礎学力が足りません。しかし、私の情熱を感じて100%出席してくれていることと信じています。

しかし、受講届が出ている学生は50人います。常時出席者は、任意出席にすると一割に過ぎません。出席を採っている時代もありましたが、すると、出席点を貰う為に授業の終了間際五分前に入室する学生が多くなり、出席を採るのを止めました。別紙の出席採点表は去年の時々出席を採っていた時代の結果です。

開講当初に徹底的に私の教育方針を開示します。(私は絶対に点をただではあげません、努力を重ねた事が明らかで無い限り駄目です。)

簿記、会計が分からない学生にとって監査論ほど分りにくいものはありません。そんな学生が最初と真中と最終の授業に出席して60点を下さいというのです、せめて出席だけでも

100%の学生であればと思って出席を採ると別紙のサマです。

私は、年に 2, 3 回までの休講をしてはいます。しかし、休講が多いという学生の出席は昨年の例（別紙参照）を見てください。こんな次第です。

私たちに休講するなどと言われるとおりに補講を完全に行います。しかし、一度生徒の答案用紙を集めて見てください。論文を書かせようものなら中学生のような文章です。それに点を与える講師も大変です。出席点、論文提出二回、等の日常の行動を見てチェックをしてテストの前に合格の可能性のある学生を発表しています。時々出席する学生はぼんやりし、顎に肘枕をし、帽子をかぶったまま聴いていることがあります。学生の質は年々悪くなっています。入学 3 年 4 年間こんな事を教えたはずはないと思います。人間は弱いもので安易に流れ易いものです。“先生、就職が決まっています。60 点で良いから点を下さい。という答案用紙が何故 60 点なのでしょう。今後、問題と答案用紙をコピーして保存をお願い致します。講師の中に学生に阿る先生がいるからでしょうか？。甘くするからそうなるのではないのでしょうか。学生も入学当初は情熱に燃えていたはずですが。それが 3 年 4 年経つ間に点をくれれば良いと安易な考えに流れてしまったのではないのでしょうか。

補講するならば全員一週間一日 8 時間連続して同じ科目を徹底的に教育をしてそれも、入学時にすぐにやりましょう。

その上に、原価計算、監査論を教たいものです。これらの科目を理論も必要ですが、実学です。如何に短い時間で正確に計算をこなすかが求められます。

学校での授業が実務界で全く役に立たなくなっています。この実学の上にこそ会計学理論が植え付けられるものと考えます。いきなり初の状態では田植えが出来ない理屈です。

私は初に水をやり、苦勞をして、芽を出させることが好きで 35 年間やってきています。

学生は全員入学させ、2 週間単位で合格者を出し、大原等で再教育、再入学を許してはどうでしょうか？或いは夏期特別講座で合格することを条件にしてはどうでしょうか？

指定校の採点を認めてはどうでしょうか？年間を通して 1 週間に一時間教育するような悠長な方針は今の時代には時代遅れではないのでしょうか。

実務界に出て初めて目が覚めたと言って手紙をよこす学生が居ます。逆に最近の実学を教えきる教授が当校に何人居られるか問題でしょうが、特別講座には一般の人も入れたいと思います。産学協同にしては如何でしょうか。教育・テスト、教育・テスト、で一定レベルまで学生の水準を上げてこそ連結を中心とした監査論の教育のしがいがあると言うものです。

教師も学生も熱くなって努力しなければ駄目だと分らせてはどうでしょうか。

しかも、短期間に競争させてはどうでしょうか。私はむしろ、教師が学生に阿ねたのではないかと考えています。学生を駄目にしたのは情熱の無い教師に 60%以上原因があると考えています。情熱のある人のみだけが教える資格があると考えます。学者は必ずしも教えるのが上手ではありません。又、有名な学者は、ある一定の水準に達した学生が聞いてこそ、真の価値が分るのです。努力しないで立派な先生の講義を聞いてもどうなるものでも有りません。

貴校からの手紙に有るように先生の質こそ（それも情熱のある）問題であると思っています。私は会計士としては商売は下手です。しかし、こうして当学校へ 35 年間御世話になっているのは、昔、御世話になった先生への御恩返しの方法の一つとして考えているから続いているのだと思います。出席人数が少ないのは教育レベルが違いすぎているという事も十分承知しています。私も実は会計士に合格しても実務をやるまでは監査論は知りませんでした。だから、出席だけしてくれれば、いざの時に役に立つと思ってレベルを落とさないで頑張っています。

以上まとめますと、次のようになります。

- ① 情熱のある先生のみで最初、又は夏期に二週間単位で一日 8 時間連続で同じ科目を教え、合格した人が原価計算、監査論を受講できる資格を与えては如何でしょうか。
- ② 受験する学生は全部入学させ、仮入学とし、適正を判断し、専門を決めさせては如何かと思えます。
- ③ 学生が何を求めて入学して来たかを最初に質問しては？
- ④ 産業界の実力者に教育させては如何ですか。（若い四十代の情熱のある人に（土）、（日）の休日を利用して集中講義をお願いするのは・・・如何でしょうか）
- ⑤ 学生にアンケートを授業の終了時に突然アンケートを取る事に大いに賛同します。教師を採点することが必要と思えます。
- ⑥ 御手紙の趣旨は良く分りましたので補講をし、休講の無い講義をします。そして、出席点を採ると言って出席をさせます。そして、程度の高い授業を聴かせます。いざの時に役立つことを期待して・・・。

私は、もう 67 歳です。（毎日、早朝 30 分のテニス等の運動は 35 年以上欠かしたことがありませんが）もう歳です。

そろそろ、引退の歳です。当校も去る時期となって参りました。

本当に永い間御世話に成りました有難うございました。

最後に本校の発展をお祈りして私の筆を置きます。失礼の段、重々お詫びします。

何かの参考に成れば幸甚です。

— 以上 —